コロナウイルスが現れて高齢者が困っていたところ、大学生が登場し、福祉活動に一役かっている件

コロナ禍で地域の住民同士のつながりが希薄化し、地域で暮らす高齢者の多くは、必要な情報を得ることが難しく、孤立が特に深刻だった。
そんな地域の高齢者のために何かできないかと立ちあがった学生や先生、社協職員!!
ここでは、学生だからこその強みや学びを生かした大学生と社協の取り組みを紹介する！
学生が地域でできることはたくさんある。
誰かの喜びや幸せにつながることは、全て福祉だ。さあ、あなたも福祉に関わってみませんか。

寝屋川市 摂南大学

めざせコロナ禍での地域福祉の活性化！大学生が教える高齢者へのICT講座！

（上段左から）【社協職員】浅尾和弘さん【４回生】青野洋介さん
【２回生】巽悠介さん　【講師】上野山裕士さん
（下段左から）【４回生】鶴田ももさん　南優香さん　桑田香菜美さん

摂南大学では寝屋川市社会福祉協議会と協力して、市内でボランティア活動に関心のある高齢者向けに「ICT 講座」を企画している。

この企画は、摂南大学の学生が授業の一環として、高齢者に SNS やオンライン会議ツールの利用方法、活用方法を説明するというものだ。

祖母の喜びから

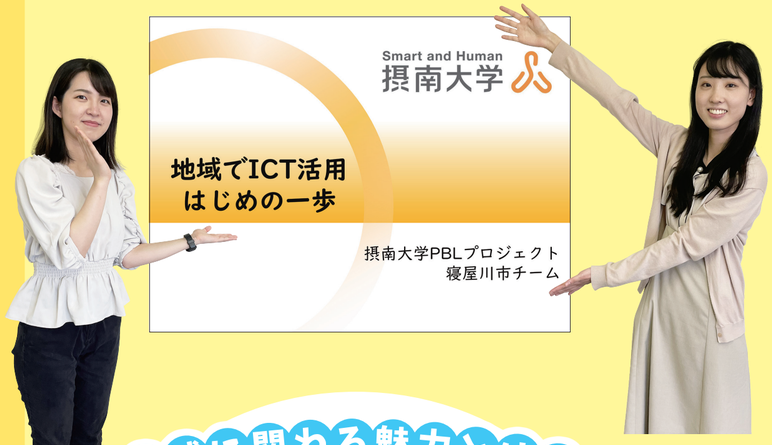
ICT講座を企画するきっかけになったのは、プロジェクトチームの４回生桑田さんだ。祖母にスマホやLINEの使い方を教えてあげたときにとても喜んでくれたという体験をメンバーに話したところ、他の高齢者の中にも、使い方を知りたい人はたくさんいるんじゃないか、そういう人たちに教えてあげるととても喜んでくれるのではないかと、この企画が立ちあがった。

今年2月に第1回目を企画していたが、当時の感染状況から延期せざるを得ず、その後緊急事態宣言もあり、9月に実施予定である。

開催は延期になったが、メンバーのモチベーションは高く維持されている。

４回生の鶴田さん、南さんは「TwitterやFacebook、Instagramなどでの広報、LINEやZoomを使ったオンライン会議の仕方などを知ってもらい、スマホやタブレットの活用の幅を増やしてほしい。これらを使って地域のボランティア活動が活性化してくれればうれしい」と企画成功への期待を語った。

他にも2回生の巽さんはボランティア活動の広報発信のため、動画撮影や編集の講座を企画している。地域のために大学生ができることを自分たちで考え、実践する取り組みはこれからもつづいていく。



地域に関わる魅力とは!?

大学生になると時間がいっぱいできる。その時間を遊びやバイトに費やすことができるが、同世代との関わりにとどまってしまう。

今回、地域に関わって多世代との交流ができて、いろんな人生の場面の話を聞くことで、自分の中の世界が広がるのを感じた。

それが大学生が地域に関わる魅力だと思う。

吹田市 大和大学

地域の高齢者を元気に！学生の学びを生かしたつながり瓦版！

（上段左から）【教授】菅沼一平さん　【４回生】生島蒼宙さん　山本みずほさん
【社協職員】山本浩世さん
（下段左から）【３回生】小竹明希音さん　糠塚早智さん　井口春香さん

大和大学保健医療学部の菅沼ゼミでは、吹田市社会福祉協議会と協力して、山手地区で健康測定講座を実施していた。コロナ禍で講座の中止や自粛生活が続く中、ひとり暮らし高齢者が心配という地域で見守り活動をしている地区福祉委員の声もあり、地域と学生をつなげるための取り組みとして「つながり瓦版」がはじまった。

作業療法士をめざす学部ならではの工夫

コロナ禍で人に会わないことで、高齢者の認知機能が低下することが危ぶまれている。そこで認知機能を維持するためのクロスワードやしりとりを瓦版に掲載した。また医療系学生の強みを生かし健康に役立つ情報も取り入れた。さらに、学生たちの趣味や最近あった出来事を気軽に書き、より身近に感じてもらえるよう学生の顔写真も入れている。

高齢者の方からは、「メッセージでパワーがもらえる」「健康お役立ち情報を意識してます」という返事もあり、非常に喜ばれている。

活動の輪は徐々に広がり、吹田警察や山手地区内の施設や団体も瓦版制作に参加。

学生と地域をつなぐ高齢者向けの情報ツールとして役立っている。

今後もつづく学生と地域のつながり

9月に地区福祉委員を対象に、学生が講師を務めるICT講座を予定している。

ICTが苦手な高齢者も多いことを踏まえ、わかりやすく使ってもらえるように社会福祉協議会、学生が一緒に進めていく。

活動に携わる4回生の生島さんは、「地道に地域での活動を行っていることもあり、地域の方が大和大学に親近感をもってくれるようになったと感じる。この先も、ずっと瓦版や講座など、地域と学生が関わる活動が続き、元気な高齢者が増え、元気な地域になってくれたら」と話す。

高齢者と関わる魅力とは？

測定で高齢者の方から「ここにきてよかった」と言ってもらえたことが忘れられない！高齢者の方が喜んでくれて、自分が役に立てたと思えた時がすごくうれしい！

認知症は知らないから怖いだけ。その裏には理由があり悲しみがある。高齢者のバックグラウンドを理解し話してみることが大切だと学んだ。話を聞くだけでなく、自分の経験として地域や高齢者に関わってみてほしい。

阪南市

趣味や特技を生かした関わり方も！

グループでのボランティア活動以外にも、大学生ひとりでできるボランティアもある。

阪南市では市内在住のイラストの作成が得意な大学生が個人で、地区福祉委員会が実施する配食弁当の包装紙をデザインしている。

最後に

自分の趣味や特技が誰かの役に立つんじゃないか、役立てたいと思ったなら近くの社会福祉協議会に連絡を！職員がきっと一緒になって考えてくれるだろう。